

静岡県精神保健福祉協会

News Letter -No.28-

巻頭言

静岡県精神保健福祉協会 常務理事

小泉 登資（静岡県断酒会理事長）

断酒会の現状とこれから

令和3年度より、静岡県精神保健協会の常務理事に就任させていただきました公益社団法人静岡県断酒会理事長の小泉登資と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

一昨年、昨年の新型コロナウイルス感染拡大は人々の暮らしと社会のありように多大な影響を及ぼし、断酒会としましても非常事態になり、断酒会活動の基盤というべき例会が開けない期間がありました。

例会再開後も断酒会を離れたままになっている会員も少なくない状況になり、また自らの酒害体験を入院、通院者へ伝えるための医療機関

の例会参加が出来ないなど、新しい仲間と出会える機会も失うこととなりました。例会が行っても参加人数や時間制約があり、広く参加を呼びかけ難い状況でした。他地域の会員や家族との交流や広く関係機関の方々や市民への参加を呼びかける大会や研修会の開催も叶いませんでした。

私たちは集う場所や時間の制約受けただけではなく、感染予防に十分な配慮をした活動をする必要があり、互いに顔を合わす機会を少なくせざるを得ない中、電話やメール、ライン等で、仲間を実感できる方策を練って来ましたが、広がりのある断酒会活動は行えず、仲間同士の悩みを十分に受け止めることは出来なかったことは、断酒会だけではなく社会にも大きな損失であったと思います。

「出会い」「ふれあい」「支え合い」が希薄になった現在、断酒会の果たすべき役割は今までも増して大きくなると思います。

今後は、静岡県を始めとする行政や医療関係団体や地域との連携を更に強め、SBIRTSの普及促進をしていかなければならないと思っております。このSBIRTSとは、アルコール依存症からの回復は、自助グループへの継続参加が必須であり、身近なかかりつけ医がアルコールに問題が生じている患者を素早く察知し専門医療や断酒会に繋げるという手法です。そのためには、地域の一般医療の医師や医療スタッフ、行政窓口担当者の知識が必要とされており、その橋渡しは今、断酒会に期待されております。

啓発活動としてのSBIRTS普及が、今後アルコール依存症の早期発見、早期治療に繋がり、社会への貢献になることが断酒会の使命であると信じており、従来の活動を重視するとともに、もう一步踏み込んだSBIRTSの普及に注力していきたいと思っております。

今後とも皆様方のご指導ご支援ご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



心の健康フェア2022

講演会・ハートフルアート展作品集発行



県民の皆様の精神疾患や精神障害についての正しい知識・理解を深める機会になり、誰もが生き生きと生活できる地域づくりの一助となるようにとの願いから例年開催してきました「心の健康フェア ハートフルアート展・講演会」は、令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講演会のみで開催とし、作品展は昨年度同様に「第43回ハートフルアート展作品集」の発行といたしました。

講演会 「親面接から見えてくること」

講師

医療法人岡谷会 佐保川診療所 所長 田中 茂樹 氏
12月7日（火） 静岡市民文化会館 3階 大会議室
13時～14時30分

聴講者 100名



奈良県にある佐保川診療所所長である田中茂樹氏をお招きして講演会を開催しました。

田中氏は地域医療やカウンセリングに従事され、不登校や引きこもりなど、子どもの問題に対してその親と面接を行う"親面接"に取り組まれています。

講演では、これまでの親面接や田中氏ならではのユーモアある子育ての経験を盛り込みながら、親から子への関わり方について話をいただきました。

受ける相談の中では、自身の子どもを弱く傷つきやすい存在と考え、つい干渉し過ぎてしまい、結果的に親子関係が上手くいかなることが多いとのこと。親が先回りして干渉することで、子ども自身のペースでチャレンジする機会を奪ってしまうこと、本来は成功も失敗も自分のこととして体験することが重要なのでできていないというお話がありました。

そのうえで、親目線で子どもの行動を指示するような関わりが甘やかしてであり、子どもがすることを見守る姿勢を保つことこそが"愛情"だということ、「この子は愛するに値する大切な人間だ」と信じ続ける必要性を説かれました。

報道において年々子どもの不登校が増えていると耳にします。時代が移り変わるにつれ、子どもたちに以前にはなかったような困難さが生じているかもしれません。



これからは一人一人その子に合った選択肢を持ち、その子に合った生き方を選ぶ多様性と、それを周りが受け入れていく構えが必要だと思います。それには親の"愛情"が必要なのだと考えさせられるお話でした。講演終了後のアンケートでは、「子どものためと思っていた小言が実は自分のためだったことに気づかされました」「今の子どもを認める大切さを感じました」など、多くの感想が寄せられました。

講演会参加の方々の感想より

「子どもが家でリラックスすること」「親が見守ること」頑張らないで、家族で見守っていきます。

子どものすべてを信じることは勇気がいりますが、自分が変わっていきたいと思います。

昔は、親は一步下がって後ろから子供を見ていたことを、思い出しました。

この子は愛するに値する大切な存在と信じ続けることというお話に感動しました。



家を、親子が考えを伝えあい、リラックスできる雰囲気になりたいと思います



ハートフルアート展作品集発行

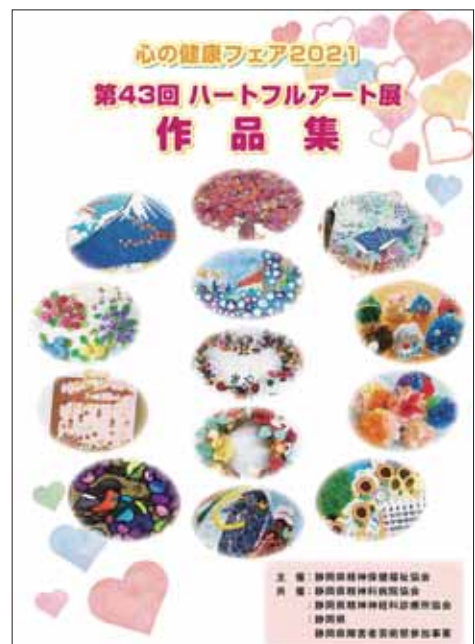


コロナ禍で活動を発表する場も限られてしまった中、24の病院、クリニック、社会復帰施設等で活動している方々の生き生きとした、また繊細な作品と、活動の風景を御紹介しました。

会員の皆様には12月にお送りしましたが、作品集の御希望がありましたら精神保健福祉協会事務局へ御連絡ください。

〈作品集掲載団体〉

- ・ふれあい南伊豆ホスピタル・沼津中央病院
- ・伊豆函南病院・聖明病院・鷹岡病院・大富士病院
- ・富士心身リハビリテーション研究所附属病院
- ・南富士病院・日本平病院・清水駿府病院・溝口病院
- ・焼津病院・藤枝駿府病院・福田西病院・天王病院
- ・神経科浜松病院・朝山病院・菊川市立総合病院
- ・富士メンタルクリニック・新清水クリニック
- ・静岡市支援センターみらい
- ・静岡市支援センターなごやか・Mネットかけがわ
- ・掛川市就労継続支援B型事業所あっとぼーむ



こころの健康づくり講演会のご案内

精神保健福祉協会では、地域精神保健福祉思想の普及及びその啓発を図り、県民の精神保健福祉の向上に資するため適当と認められた団体に対し、こころの健康づくり講演会開催の支援を行っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染防止対策のため例年以上の工夫や準備をされて、各講演会が開催されました。既に開催された講演会と1月以降に予定されている講演会を御紹介します。

●発達障害～支援の輪を広げよう～

講師 静岡県中西部発達障害者支援センターCOCO センター長 櫻井 郁也 氏

◆令和3年12月1日（水）藤枝市生涯学習センター

主催者：藤枝市自立支援課

<講演会の内容>

- ・発達障害とは何か
- ・発達障害の具体的な事例、特性、対応について知る

<感想等>

発達障害とは何かという基礎的なことや、特性、支援について事例を用いてお話いただいた。「発達障害者との関わり方を工夫してみようと思った。」「個性に合った対応が重要であることがわかった。」「当事者が輝ける環境を作るヒントになった。」等の感想が聞かれた。



●質の良い睡眠とは？

講師 サージセンター浜松 医師 新島 邦行 氏

◆令和3年12月4日（土）菊川市総合保健福祉センター

プラザけやき

主催者：菊川市健康づくり課

<講演会の内容>

- ・良い睡眠で、からだもこころも健康に
- ・良い睡眠のための生活リズム、体温調整、体内時計に配慮したポイント
- ・慢性化した不眠はうつ病発症リスクを高める

<感想等>

「良い睡眠は生活習慣病予防に繋がるというので、運動や食事の注意を生活に取り入れ、良い睡眠ができるようにしたい」「自分が良いと思ってやっていた事が、実はNGだったことが分かって良かった」「子供とスマホについての話で、周りの人たちは年々子供にスマホを持たせるのが早くなっているので、今回の話をしてみたい」などの感想が聞かれた。



●ひきこもりは何故起こるのか～理解と支援

講師 エムオーエー奥熱海クリニック 院長 佐久間 哲也 氏

◆令和3年12月16日（木）あやめ会館多目的ホール

主催者：伊豆の国市精神保健福祉会 かの川会

<講演会の内容>

引きこもりについては、様々な理由がある。若者、高齢者、児童精神疾患等がどう関わっているのかにかんして支援できるのか。

<感想等>

自己否定、きれる、自分でもよくわからない状況で家族といっても違う次元にひきこもってしまう。

そんな状況下の存在を認めて、信頼関係を築けたらと思った。



●自分の物語を生きる～生きづらさを抱える人、支える人のために～

講師 浜松自死遺族わかちあいの会代表 佐々木 浩則 氏

◆令和3年12月21日（火）焼津文化会館小ホール、期間限定のオンデマンド

主催者：焼津市健康福祉部地域福祉課

<講演会の内容>

自らが妻を自死で亡くし障害のある息子と2人で暮らす体験談を通して、困難や生きづらさを抱えて生きるために必要なこと、周囲の人が支援するために必要なことについて。

<感想等>

当事者の体験について、一般市民が話を聞く機会は少ないと考えるが、残された人への支援や、生きづらさを抱えた人へ寄り添う姿勢が必要であることについての感想が大多数で、今後活用できると回答した人が、80%だった。

●ひきこもり支援

講師 特定非営利活動法人サンフォレスト代表 三森 重則 氏

◆令和4年1月17日（月）島田市役所会議棟 大会議室

主催者：島田市福祉課

<講演会の内容>

ひきこもりの基礎知識、ひきこもり支援の難しさ、支援ポイントについて

<感想等>

ひきこもりが様々な要因によるものであることや、支援の難しさ・ポイントについて学ぶことができた。ひきこもりの推定される人数と把握人数との乖離があることから、今後も地域での理解を進めるよう啓発していく必要を感じた。



今後開催予定の講演会の紹介

開催日	会場	テーマ・講師	主催団体
令和4年 2月22日（火） 13：30～15：00	工房オアシス 2階会議室	精神障害を抱えられた方々を支援する中で 私が感じたこと ～私の経験から今思い、伝えたいこと～ 講師：社会福祉法人Mネット東遠 掛川地区統括 戸塚 恵理子 氏	掛川小笠地区精神保健福祉 社会ひまわり会 TEL 0537-29-8970
令和4年 2月26日（土） 13：30～16：30	プラザけやき 201会議室	怒りの感情に巻き込まれず、人と上手く付き 合っていくために 講師：菊川市立総合病院 精神科医長 大城 将也 氏	菊川市精神保健福祉ボラ ンティア あしたばの会 TEL 0537-28-9716

※新型コロナウイルス感染状況によっては、延期または中止になる場合もあります。

詳細は各主催団体へお問合せください。

ニュースレターN027 で御紹介した「NPO法人さざなみ会」「社会福祉法人Mネット東遠」「三島市保健委員会」主催のこころの健康づくり講演会は、新型コロナウイルス感染防止のため今年度の開催を中止します。



厚生労働大臣表彰



令和3年度精神保健福祉事業功労者の厚生労働大臣表彰は、静岡県精神保健福祉士協会 会長、特定非営利活動法人こころ理事長である菅原 小夜子 氏が受賞されました。

菅原氏は、精神保健福祉士として永年にわたり精神保健福祉業務に従事し、精神障害者の相談支援、地域作り、ピア活動の発展、地域住民への普及活動に力を尽くすとともに、精神保健福祉の各種事業への協力、普及啓発活動及び専門職の育成、教育指導、人材育成等に多大なる貢献をした功績が認められました。おめでとうございます。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、精神保健福祉全国大会での表彰が開催地の埼玉県内受賞者に限られたことから、表彰状は令和3年12月7日（火）「心の健康フェア2021 講演会」会場にて、静岡県精神保健福祉協会 石田 多嘉子 会長より伝達されました。

当日、会場には静岡県精神保健福祉士協会と特定非営利活動法人こころの関係者の方々も来場され、花束を贈って受賞をお祝いしました。

令和4年度の日程

☆新型コロナウイルスの感染状況によって、予定が変わる場合があります。

○第61回理事会・総会・講演会・表彰

令和4年6月15日（水）
静岡県男女共同参画センターあざれあ
記念講演会を開催（詳細は5月に御案内します）

○心の健康フェア2022

開催方法は、令和4年度の当協会ホームページ、ニュースレター9月号、会員様宛の通知にて御案内します。

○ニュースレター

令和4年9月中旬、令和5年2月中旬発行

○こころの健康づくり講演会

開催申し込み期限令和4年4月6日（水）必着
各講演会の開催予定は、令和4年度の当協会ホームページ、ニュースレターにて御案内します。



静岡県精神保健福祉協会 石田 多嘉子会長から
「厚生労働大臣表彰状」を伝達される
菅原 小夜子 氏

【当協会の活動に御賛同いただいている 会員企業様】

（敬称略・順不同）

- ・ 静岡銀行
- ・ 浜松いわた信用金庫
- ・ (有)サカエ印刷
- ・ (株)日本軽金属蒲原製造所

静岡県精神保健福祉協会

〒422-8031

静岡市駿河区有明町2-20

静岡県静岡総合庁舎別館4階

TEL&FAX 054-202-1220

E-mail: sizuoka_seisin@ybb.ne.jp

ホームページは
こちらから▼

